



## デイリー・ジーザス・ニュース #321

金曜日...苦悩と贖罪の日

十字架上のイエスの贖いの犠牲

イエスは十字架につけられ、「父よ、彼らをお赦してください」と祈った（格言その1）  
ヨハネ19:18-24（並行聖書：マタイ27:35-38、マルコ15:24-27、ルカ23:33-34, 38）

=====

18 彼らは、「どくろ」と呼ばれる場所に着くと、そこでイエスを十字架につけました。また、他の二人の犯罪者、すなわち強盗も、一人は右側に、一人は左側につけました。イエスは真ん中にいました。

M 彼らがイエスを十字架につけたのは、午後三時（午前九時ごろ）でした。

イエスは続けて言われた、「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのが、わからないのです。」

19 ピラトは告発状を用意し、十字架に掛けさせた。彼らは告発状を彼の頭の上に掲げた。そこにはこう書かれていた。

これはユダヤ人の王、ナザレのイエスです。

20 イエスが十字架につけられた場所は町に近かったので、多くのユダヤ人がこのしるしを読んだ。また、このしるしはアラム語、ラテン語、ギリシャ語で書かれていた。

21 ユダヤ人の祭司長たちはピラトに抗議して言った。『ユダヤ人の王と書か『ずに、この男がユダヤ人の王を自称したと書いてください。』

22 ピラトは答えた。『私が書き記したものは、書き記したものです。』

23 兵士たちはイエスを十字架につけると、その着物を取り、それを四つに分け、一人ずつ分けた。下着だけが残った。その着物は縫い目がなく、上から下まで一枚の布で織られていた。

24彼らは互いに言った。」それを裂かないで、くじでだれがそれを得るか決めよう。そこで「彼らは、それぞれ何を得るかを決めるためにくじを引いた。

これは、聖書に書いてある言葉が成就するためであった。

」彼らは私の服を分け合った  
わたしの着物をくじ引きで分けてくださいました。」（詩篇22章18節）

兵士たちはそのようにしました。そしてそこに座り、イエスを監視していました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの西の城門の外にあるゴルゴタ
タイムライン	4月上旬（39ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦悩と贖罪の日
	十字架上のイエスの贖いの犠牲
タイトル	イエスは十字架につけられ、「父よ、彼らをお赦してください」と祈った (格言その1)

今日の朗読は、イエスの磔刑の物語の続きです。四福音書には、十字架上のイエスの七つの言葉が記されています。これらの言葉は、イエスの死の際に何が起こったのかを最もよく説明しています。なぜなら、それらはイエス自身の最後の言葉だからです。十字架に関する私たちの解説では、この七つの貴重な言葉に焦点を当てます。この聖句には最初の言葉が含まれています。これについては後ほど詳しく見ていきますが、まずいくつか重要な点について考察する必要があります。

四福音書において、イエスの磔刑の物理的な詳細がセンセーショナルに描かれていないことは特筆すべき点です。四人の筆者は簡潔にこう述べています。「...そこで彼らはイエスを磔にした。」ローマ帝国の誰もが磔刑がどのようなものかを知っていました。詳細に描写する必要はありませんでした。さらに、イエスの十字架において重要なのは、肉体的な拷問そのものではなく、イエスの死によって何が成し遂げられたかです。福音書はまさにこの点を強調しています。

イエスと同時に十字架にかけられた男たちは、危険な盗賊でした。彼らを形容する言葉は、単なる泥棒のこともあれば、権力への反抗を支えるために盗みや略奪を行った反乱分子のことを指すこともあります。ピラトが彼らを十字架刑に値すると判断したという事実は、彼らが生きている間ずっと人々にとって脅威であったことを示しています。

イエスは「罪人の中に数えられました」。神の御心と御言葉に反抗するすべての罪人と父との間の仲介者として死んだため、イエスは真ん中の立場で十字架につけられました。

ローマの敵対者たちに対する告発は、十字架に刻まれていました。それは、人々が彼らの具体的な罪を認識し、彼らに倣わないようにするためでした。イエスに対する告発は、ユダヤ人の王であるというものでした。実際、イエスは万王の王であり、ダビデの子として、絶対的な権威を持つ者としてすべての被造物を統治しておられました。

ユダヤ人の指導者たちは告発文を書き直すよう求めたが、ピラトは断固として拒否した。彼は返答の中で完了形を二度用い、自分の意図について誤解が生じないようにした。告発文は原文のまま有効とされた。

皮肉なことに、ピラトはイエスに対する訴状を一切変更しないと固く決意していたものの、イエスは無実であり死刑に値しないと5回も繰り返し主張したにもかかわらず、群衆の意向に屈し、自ら無実と宣言した人物に磔刑を命じたことにはためらいがなかった。彼は、自分に突きつけられた最も重要な決定においては優柔不断で人を恐れる臆病者だったが、比較的重要でない事柄においては毅然とした断固とした人物だった。

イエスの高価な、縫い目のない織りの服をくじで引くことは、詩篇22篇18節の聖句を具体的に成就するものとして重要でした。十字架に関する今後の朗読で見ていくように、詩篇22篇は、イエスが語るメシアの死を理解する上で重要な役割を果たします。これは、十字架刑の物語の中でこの詩篇が具体的に言及されている3つの箇所の中の最初の箇所です。

さて、十字架上のイエスの最初の言葉に移りましょう。これは福音書の中で最も有名なイエスの言葉の一つです。

**「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか知らないのです。」**（ルカ23:34）

ギリシャ語訳から、イエスが十字架上で最初の数時間、この祈りを絶えず繰り返していたことが明らかです。この言葉には多くの啓示が含まれています。以下はそのほんの一部です。

イエスは私たちの大祭司として死に、私たちの罪の代償として、私たちの代わりにご自身の命を捧げられました。律法下の大祭司が、その年の罪の赦しを神に求めるために、犠牲の血を携えて至聖所に入ったように、イエスは父なる神に、私たちの赦し、人類のすべての罪の赦しを、永遠の罪の赦しを願い求めました。この祈りは私たちの赦しを確固たるものにしました。父なる神はこの祈りに完全に応えてくださいました。

私たちが神に特定の罪の赦しを求める時、私たちはイエスが私たちのために祈ってくださったこの祈りに賛同しているのです。ですから、私たちは求めているものが与えられたと確信できるのです。

この言葉には、イエスの生涯において他に類を見ない無条件の愛が表れています。彼らはイエスの敵でした。次の朗読では、イエスが彼らのために祈っている間、彼らがいかに残酷に嘲笑し、嘲弄し、冒涇していたかを見ていきます。イエスが不当に自分を殺した者たちの赦しを祈るこの場面は、この地球上でこれまでに目にした中で最も偉大な愛の実践と言えるでしょう。

イエスは本当は誰のために祈っていたのでしょうか？それは、イエスが磔刑にかけられた数時間に、歴史的にその場に居合わせ、イエスの死に直接責任を負った人々だけではありません。イエスが死んだのは、私たち皆が罪人だからです。たとえあなたと私が、かつて生きていた唯一の人間であったとしても、すべての被造物の中で唯一の罪人であったとしても、私たちが赦されるためには、イエスが私たちの代わりに死ぬ必要があったでしょう。

あなたと私は、あの日群衆の中にいた人々と同じように、イエスの死に深く関わっています。ですから、イエスは私たちに赦しを求めた時、すべての時代の罪人のために祈っていたのです。私たちのためにも祈ってくださったのです！

要するに、イエスは、赦しを必要とし、神に願い求めるすべての人にとって、この祈りが確実に聞き届けられるように、命を捧げられたのです。十字架の大きな目的の一つは、すべての罪から永遠の、絶対的な赦しを得ることでした。イエスは「*世の罪を真に取り除く神の小羊*」でした。こうしてイエスはそれを成し遂げたのです。

応用：

新約聖書は、神に罪を「告白する」ことについて述べています。以前のDJNの朗読で見てきたように、「告白する」とは、誰かが言ったことに「同意する」ことを意味します。私たちは、神が

私たちに罪を犯させたと告げられたように、神と神の言葉に同意するのです。イエスのこの祈り、すなわち、イエスが私たちの罪の代価を支払って私たちの罪を赦してくださるようにと祈りながら亡くなったことにも同意します。私たちは、永遠に赦されていることに同意します。なぜなら、それはイエスが命をかけて確立した新契約の約束でもあるからです。

イエスのこの祈りと、その代償としての死によって、私たちの赦しは確固たるものとなりました。聖書のどの箇所よりも、この場面は私たちに赦しへの強い確信を与えてくれます。ハレルヤ！

イエスが十字架上で祈られたように、今日、あなたにもイエスに同意する必要がある罪がありますか。

あなたが自由に赦されるために、この祈りを捧げ、この死を遂げてくださった主に対して、あなたは今日どのように賛美し、感謝し、礼拝しますか。